夕刊
磐城新聞
九月八日發行
定價 一ヶ月金六十五錢
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇六・五八五五番

天氣豫報
小名濱測候所觀測
今晩は北の風曇
明日は南東の風曇後晴

詩人を中心として 明治大正詩史（序説）

島田忠夫

（二）

●●●三木露風は十七歳にして詩集『夏姫』を刊行した。後ち、明治四十四年に白秋と知るに及んで合著『忽忘草』を出したが、露風の詩には早くも東洋的象徴詩人としての風格を備へてゐるかの如くであつた。『春の旅情』『現身』等はその傑れたものであり、彼の象徴詩人としての詩境の高所に至つたのは、大正の中期に及んでからである。すなはち『廢園』『白き手の獵人』『幻の田園』『蘆間の幻影』『信仰の曙』その他多くの詩集を出し、作品には『白き月夜』『橄欖の下』『船の印象』『海上の幻想』『村童』『牛』等の佳篇を數へることが出來る。

●●●野口雨情の民謡集『枯草』が刊行されたのは明治三十八年三月であつた。この著は、世に多く顯れずに終つたが、明治の民謡運動の成果として、民謡集出版の魁とも言へよう。尤も、民謡に近いものの創作に至つては、明治二十四年に中西梅花の『浦のとまや』があり三十年代に横瀬夜雨が、有名な『お才』その他に郷土的色調の濃い民謡調を發表したほか、薄田泣菫等の作にもあつたが……雨情は専ら郷里茨城の風物に取材して、牧歌的情趣に富んだ作品を多く發表した。『旅の鳥』『河原柳』『枯れ山唄』『來よつばめ』『草刈り娘』等、佳篇と言へよう。雨情はまた、童謡制作に筆を染めた事は、普く人の知る所である。

●●●●●高村光太郎また、『新詩社』中の精鋭として。平野萬里、茅野蕭々、吉井勇、玉野花子等と相競ふた。光太郎は東京美術學校彫刻科出身の著名なる彫刻家にして、一方秀抜なる情熱詩人であつた。久しく米國、また佛蘭西に留つた。詩集『道程』譯詩集『明るい時』があり『雨にうたるるカテドラル』『樹下の二人』『火星が出てゐる』等、高踏的な作風は他の追従の許さぬ所であらう。

●●●山村暮鳥は、大正期に入つて活躍した詩人である。筆者は幼時東北の平町に育つたものであるが、暮鳥は聖公會牧師としてこの田舎町に居住して居つた。詩集『三人の處女』『聖三稜玻璃』『輝かしい光芒をひき』作品に『雲』『春の河』『月』『病牀にて』『朝』『りんご』等、幾多の傑れたものがある。思索の人であり、寡默の人であつた。しかも、おほくは醫藥に親しみ、寂しき臥床裡にあつた。大正十三年十二月、茨城縣磯濱にて、不退の中に病歿した。

●●●室生犀生は、初期に於て極めて野性的に、しかも眞率にして、烈々たる熱鬱を言ふべき作風を以て詩壇に頭角を現はした。『抒情小曲集』『愛の詩集』『田舍の花』『星より來れるもの』『忘春詩集』等、多くの詩集がある。作品に、『寂しき春』『土』『かもめ』『朝の歌』『夕の歌』『小さな家庭』『碑々』の如き、愛誦すべき佳篇まで尠くない。

秋はこつそり

水藤春夫

秋はこつそり 葉のかげに
あかい・丸い實で のぞきます
――白い土べいの下の道
――ちやのひげの珠
赤い珠

秋はこつそり 青空に
虫發聞き／＼ ゆれてます
――あざみぼけてる 畑邊に
――高くゆれてる ほうき草

秋はこつそり 木の間から
いがの間から 香します
――お宮詣りの 高石段
――こけて ころげる 栗のいが

秋はこつそり かな
砂をかみ／＼ うたひます
――誰も通らぬ 水泳場
――足のこわれた 白ベンチ

秋はこつそり どこから
か おいでおいでと 呼んでます
――風にユラユラ カレンダー
――風にユラユラ カレンダー、

彼岸花

日暮れ 畑道は どこまで行つても 彼岸花
赤い夕陽は 斜から 花と花とを 結びます

夕焼ぐもを 映してか 白くほけてる 彼岸花
（ここで遊んだのは 誰だろな あれ あそこ きつねの提灯 落ちてゐる）
狐が出そうで 狐が出そうで 狐が出さうで 俺かけて歸つた
――彼岸花（曼珠沙華）を私の郷里では『きつねの花』とよぶ。これで子供等は提灯を作る。

平局俳黎會 九月句會。互選句集

『かやり火』（三）

○非常時に鞋作りて蚊遣かな 古川三因
○蚊やりたく畑の果や月白し 酒井青風
○蚊火の煙りとけゆく空の星明り 石井陽光
○湯上りにラヂオニュースや蚊遣香 林節女
○蚊遣り焚き圍碁の友がき招じけり 渡部醉夢
○宿の宿羅漢のごとき蚊やり人 佐久間松露
○蚊やり火の門に佇む街の人 同人
○かやり焚く我に藪蚊の襲ひ來ぬ 佐藤艶女
○出征の家ひつそりとかやりそむ 同人

『友戰死』

○骨壺を守りてかやり火に咽び居つ 大和田水明

9 9日

△露文豪トルストイ生（一八二八）
△北海事件に關し須磨總領事嚴重抗議提出
△佛國人民戰線[illegible]解消（昭和一二）

つその日

○

誠心を以て言行せば影の形に添ふ如く幸福はその人に常任す 佛陀

送甥勝利爾役滿洲

珠宴 小野務平

萬里壯行傾別杯
衝天意氣亦豪哉
只當正義討狂虐
殲滅蘇胡巣窟來

講談

隱密小天狗（120）

中川雨之氏作 近藤[illegible]氏畫

意外

「萬一、事が露顯したら」

惣五郎の心も、同じやうに恐ろしい空想の世界へ誘ひ込まれた。逆磔刑？打首？戰慄が、肚の底から込み上げて來た。

「陰謀露顯の口火に火を點けようとして居る戶田俊作め！おのれ、生かして置くものか……」

と、惣五郎は思はず小屋の方を睨まへた。

そこへ足音、お蝶が戻つて來た。親子は話を打ち切つて、素知らぬ顔。

「あら、兄さん、お歸んなさい」

彼女は、座敷へ來ると、いきなり團扇を遣ひ初めた美くしい額にも、首筋にも汗が滲んで居る。

「急いで行つて來たから。ずいぶん暑かつたわ」

「何處へ行つて來たんだい」

と惣五郎。

「買物に町まで行つて、その序といつては勿體ないが觀音さまへお詣りをして來たわ」

「さうか」

といひながら、惣五郎はお蝶の持つて來た風呂敷包に目をつけて。

「なんだい。それは」

「お父さんのお土産に葛餅と、それから戶田さんにあげようと思つて鷄卵と片栗粉を買つて來たの」

「ふむ」

と、惣五郎は、いやな顔をした。

お蝶が、買つて來た葛餅を、父に食べさせようとして、臺所へ行つて水に冷してゐると惣五郎が後からやつて來て、

「お蝶、ちよつとばかり、おめえに話してえことがあるんだ、お父つさんには聞かしたくねえことだから、それが濟んだら、あちらの家まで來て呉れないか」

「さう、ちやあ、直ぐに行

といつたが、父に聞かせたくない話つて、いつたいどんな話なのだらうと、お蝶は、急に氣がかりになつて來た。

で彼女は、葛餅を藤兵衛の枕もとへ運んで置いて。急いで母屋の方へ來てみると、惣五郎は、風通しの好い座敷の縁側に、腰をおろして待つてゐた。

その顔色がひどく沈んでみえるので、お蝶は、猶更心配になつて來た。

「兄さん、話つて、なあに……？」

「まあ、其處へかけな」

惣五郎は、前に來て衝立つてゐるお蝶へ、腮をしやくつて、そばへ腰をかけさせた。

「實は、飛んでもねえことが持ち上がつたんだ」

「え、飛んでないこと」

「さうだ。おめえ、あの戶田さんといふ人を、一體全體、何だと思つてゐるんだ」

「え、戶田さん、あの人かどうかしたの」

俊作の話が出ただけで、お蝶は忽ち胸を打たれた。

「あの人は、恐ろしい幕府の隱密なんだぜ」

「わッ」

と驚きながらも、お蝶は先づ、自分の耳を疑はずに居られなかつた。それは滅多に信じられないことであつた。信じられないといふよりは、寧ろ信じたくないことであつた。

「それには、なんぞ、確かな證據でも」

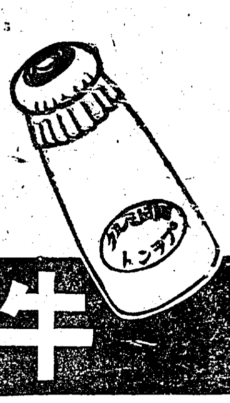
「うむ、あるともあの肩先の疵、あれが、何よりも動かぬ證據だ、と、いつただけでは、分るめえが」

と惣五郎、小屋の方へちよつと目を配つた。

實用新案第一八七四三〇號
意匠登錄第六六一六七號
石山式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な「かまど」は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が強く堅牢で火の元絶對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。

和洋銅物金物問屋
（久）釜屋商店
平市五丁目

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2） 西村藥局 （電3）

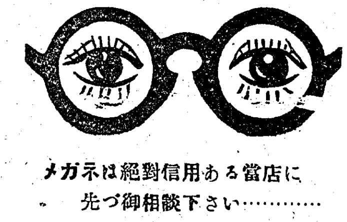
斷然―賣行よし
信用と品質と共に偉つて
低溫殺菌

岡田牛乳
平市鎌田町 電話五一

鈴木醫院
齒科 口腔外科 日本齒科醫學士 鈴木政 內郷村高坂 磐炭病院前
耳鼻咽喉科專門 醫學士 鈴木正男 平市田町（電話五八番） 藤田女學校前
「入院のお需めに應ず」
（看護婦及び見習看護婦募集）

內臓外科 一般
外科花柳病科（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

磐城の御みやげ品
名物 靈峰羊羹（名產柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
製造發賣元 平屋賣店
小川郷驛前

メガネ專門の店

メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目 玉屋

晝夜診療
外科一般 內臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
〔血液檢査毎日〕
イツデモ入院デキマス。
平市新川町〔電四六四〕
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

吸入[illegible]
衛[illegible]
モノサシ マス ハカリ
[illegible]
體溫器 寒暖計
關內藥局
電話四〇番

內科、小兒科
（入院 自炊の便あり）
鈴木醫院
平市鍛冶町八番地
（吉田屋呉服店西隣）
電話四五二番

二學期初頭早くも
卒業生殆ど豫約濟み
平商へ物凄い求人殺到

『持たざる國』の産業資源開發から工業方面の各學校では若きエンヂニアの巣立ちを早める卒業期繰上げの非常時的立法さへ行はれる今日であるが、右は單り技術關係のみに止まらず、事務的方面にも著しく同樣の傾向を示してゐる。即ち之を五年側の甲種に昇格以來既に八年、若きビヂネスマン養成の優秀な温床として近年漸く各方面に其の存在を確認されて來た平商業學校に對する明年卒業生の求人申込に徴するも例年なれば二學期頃より就職口の開拓を開始し來つたに對し、今年は一學期當時に於て服部校長が前後三回に亘つて京濱地方に出掛け盛んに活躍したのと時節柄求人側が早期の申込みによつて優秀な人物を優先採用せんと張り切つた關係もあらうが現在既に

鑛業、商事、銀行其他の三菱系をはじめ三井の芝浦製作所と云つた大處から富士電氣、安田銀行川崎造船、明治火災、日立鑛山、同製作所、鮮滿方面では朝鮮鐵道、日滿商事、昭和製鋼、日本製鐵等、等

の各方面から卒業生八十六名と殆ど同數の申込みあり三菱の如きは現に人物試驗の爲め社員が滯在して居る程で學業、人物、健康等の各方面から精密詮衡の結果多少の見込み違ひがあるにせよ明春卒業生八十六名内自家營業約二十名を除く六十數名は卒業期迄には完全に決定するものと觀察される

一週間の訓練で偏食が直つた
臨海學校の顯著な効果

平第一小學校では夏期休暇中の行事として今夏も行つた甲（四倉宿泊）乙（仁井田浦日歸り）兩種の臨海學校に就き種々の觀點から其の成績を統計的に取り纏めたが之によると僅々一週間の短時日に拘らず、各方面に面白い動きを見せてゐる

次は斯うした方面に比較的顯著な變化を現す四年以下の低學年即ち日歸り組の兒童に就てであるが、製表未了の甲種兒童（百七名）も大體同樣の結果であらうと觀られてゐる

（兒童數九十三名）

體重增加	六五
同減少	二四
變化なきもの	四

其の他一般傾向

一、偏食が著しく矯正された。常時家庭に於て牛乳漬物、味噌汁を嫌つたのが普通に食べる樣になつた

二、氣儘の惡癖が直つた

三、教師兒童、兒童相互間の親睦が厚くなつた

四、團体的訓練が徹底的に馴致された

五、風邪に對する抵抗力が增大した

尚は稀には夜尿の癖が癒つたと云つて感謝して來た父兄もあると

木村孃拔擢さる
ハードルの女王

來月八、九の兩日明治神宮外苑競技場で擧行さるる日本陸上競技聯盟主催全日本東西對抗陸上競技大會並に全日本女子三部對抗競技大會の十八米障碍に磐女出身木村トシ孃（一七）が決定、晴の檜舞台を踏むこととなつた

トシ孃は現在福島女子師範二部一年在學、三段跳からハードルに轉向した縣下女子ハードル界のナンバーワン、市内磐城跡官吏木村忠介氏（五二）はるさん（四四）の三女で姉なかさん（二五）も地方競技界に活躍した

モグリ周旋の自然防止だ
連絡員の常置を前に 立澤紹介所長の談

昨報、職業紹介所の補助機關として新法が創設した、連絡委員は平市の八名を筆頭に炭礦漁農山村等の全般を通じ合計百二十一名と決定した、委員は方面委員の如く常にその分擔地區内に於て求職求人の調査或は斡旋等諸般の連絡に當るもので主に小學校長、青年學校長等が適當と見られ紹介所で取急ぎ人物を詮衡の上縣に内申し遲くも今月十五日迄には正式發令されるものと見られるが愈よ決定の上は市、郡下を三方部に分けて委員の初顔合せ會を開き種々今後の打合せをなす筈である、立澤平紹介所長の話

この連絡委員の決定によつて紹介所を中心に緊密な連絡網が成り立つわけで時局柄輻湊してゐる仕事がドシ〳〵進められ委員の機能發揮によりモグリ周旋の跋扈も自然防止されやう

第一校遠足

市第一小學校では今月の月次運動として今八日朝來左記の如く全校千七百名兒童の遠足會を催した

一年内郷村權現山　二年同一の矢龍雲寺　三年平錦安養院　四年同四波大神宮山　五年同石森山　六年閼伽井嶽　高一二永戸村水石山

植田でも協和會結成

串島同胞を以て平協和會が結成されたが植田方部でも去月二十二日署樓上に發會準備會を開き『植田協和會』の此程愈よ發會式を擧げ左の如く役員を決定

△會長鯉淵龜五郎△副會長中山吉之助、渡邊健藏△相談役加古平吉、岩崎乘平、成瀬巳三、齋藤直一△指導員主任河町安治補導員金容奉、河哲明外七名

平新景物詩（一）
變る紫陽花
婆の羞恥！爺の初戀 迚も愉快な花言葉

一杵また一杵。靜かな曉の空氣を顫はして聞えて來る、城山の嫋々たる餘韻から生れたやうな一陣の涼風が、朝餉に汗ばんだ肌に冷んやりとする處は、如何にも新秋の爽かさを思はせるものがあるが、はるかなる發電所の黒煙の傍の方から刻一刻お陽樣が上ると、木陰が少く濕の氣の多い都平市は、けふも亦灼くが如き殘暑の坩堝に投げ込まれて、暑さを呪う聲も起らうと云うもの

0

暑さに打ちのめされた人達は水を含んだ鮮新な花を眺めて脆くも分散しかけんとする生氣を甦らせやうとする。平窪の婆つばちやんだの白土の姐ちやんなどが胡瓜や茄子やトマトや南瓜などと一緒に持つて來る紅黄濟紫色とり〴〵の花は、そうした花のフレツシユを求むる家庭に潔が生えて喜ばれるんである。

0

色彩が濃厚でモチの良いの、大抵はそんな標準で夫々の好みと云うものがあるが花と云はるる程のものは大概賢れて了つのであるが、之を一々西洋流の『花言葉』に當て欲めて見ると隨分奇拔なのが無いでも無い。

0

○丁目裏通りに居る小金持ちの八十婆さんが佛壇の爺イ樣に上げるのに買つた芍藥が、褪の崩れるのさへ可笑しい年頃の娘が、耳朶まで眞つ紅にする『羞恥』を意味したり、土を舐める樣にして歩く田町のなにがし爺さんの求めた木犀か『初戀』の花だつたり、食婪飽く無き○△町の高利貸が野菜代のツリ錢代りに取つた鳳仙花が『淡白』の象徴だつたり、觀じ來ればイヤハヤ迚も愉快なんどあるべからず』である。

0

それから紫陽花なら何時持つて行つても買つて呉れると云ふのが新田町にある之れなんかは無關心で買ふのではなく、その花に『戀愛』と云ふ宗教を認めて居るんだから物凄い。心り抱へ妓に客から客へと、男を飛び石代りに渡り歩かせて能率を發揮せしめると云うにあるそうな。

＋　＋　＋

取引既に一萬五千貫
四倉繭市場一時閉鎖

四倉市場の秋繭取引は愈よ終末に入つて出廻りが著しく減少一兩日中には全く取引が無くなるので一たん閉鎖の上晩秋繭の廻りを待て再び開場すことになつてゐるが最近迄の取引集計は一萬五千百三十九貫四百匁この額六萬七千四百二十七圓四十一錢に上つた

最高四七圓五〇錢　最低三三圓　買値四〇圓五〇錢

改正徴兵令周知

市では去る一日を以て徴兵令の一部が改正され『第二補充兵で旅行の際はその旨市町村役場に屆出るべし』等の法令を昨七日市内各區長を經て周知せしめた

戸數割査定終る
あす（午後一時）本會議

平市十三年度特別税戸數割査定は昨七日の特別委員會を最後に終了、明九日午後一時からの本會議に附議される、委員會での修正案左の如く小委員會での減差二百三十三圓は賦課額五十圓以上の特別委員會で補つた

（小委員會）增二五〇圓、減四八三圓差引減二三三圓

（特別委員會）增五〇一圓　減二六八圓差引增二三三圓

陣中を聽く
（233）

平の兵隊を尋ねて列車中を呼び歩く
市内柳町中身 宇佐美芳位君（信濃）（下）

未だ一口も生水は飲みません、全部煮沸して水筒に詰めて飲む式は軍隊でなければ味はれません。其他綿布日用品等も又貴殿の商品の樣な品もの、手の出ない程高價で且つ取り放題と云う樣な商ひ向き、元々支那人は金錢に五月蠅いと聞いて居りましたが實際です。申し遲れましたが去る十八日ー田町ランドリー伊藤さんとやらに當地で會ひました、現在〇月一日より〇月に渉りまして〇〇も御座いますので定めて平方面からの兵隊さん居らんかと自分が牽引して引く列車は問ひ合せますので當日は第〇〇〇管轄の混成〇〇と聞き、少しや目に出動してホームで列車を受け少々の時間を利用して列車全部を『平からの兵隊さんは居らんか』と尋ねましたら後部（五十三輛あつた前から十一輛目）客車に乘つて居られました。私も初對面先方も見不知で誰かと思ひましたでせう、茂木さんとお話しました宣撫、と云つて兄と云ふ方は此の次の客車に居ると申されました。時間が無いので兄と云ふ方——湯殿山の神官樣でせう——にはお目にかかりませんで發車になりました。元氣で〇〇方面に向ひました、此の列車は〇〇行きですがどの地へお出でかは私には判りませんです。伊藤さん兄弟で良く御働き下さる事を感謝致しましたからお傳へ申します、何しろ餘り時間もありませんで甚だ遺憾でした。兎に角大元氣で向はれましたから御安心下さい。

中支那は今では日中八十度上下です、大變凌ぎよくなつて參りました。私も皆々樣にはありとあらゆる御厚情を預りまして人並みならぬ貧弱な體軀ですが酷暑とも鬪つて敢然と征服した樣な氣がします、今分では何とか滿足し（略）若樣から頂く玉章をお受けして元氣百倍し軍務に精勵して倜々敗殘兵が襲來して鐵橋を爆破しましたが皆鐵道警備兵の盡力で一つも支障なく只列車の遲延で止めて居ります、併し場所が場所ですから一寸も油斷も隙もありません（後略）

純情の獻金
感心な磐野敏光君

市内胡摩澤本第一小學校四年三組磐野敏光君（一一）は小遣ひ錢を蓄めた一圓五十錢を恤兵費に寄附して頂き度いと昨七日受持ち先生に差出し篠山校長以下を感激せしめた

寄附

◇市内田町内藏敏二君は目下前線で活躍してゐる勇士だが貧困救濟に此程軍事後援會へ金十圓　◇磐城高女寄宿生一同として恤兵金二圓四十錢　◇市内二丁目田巻まささんは毛布一枚

寄附募集を戒む
防空演習を前にし 市當局で各區へ周知

防空演習の近づいた昨今、これが訓練費用として其筋の許可なく寄附あつめをしてゐるものがあり、これは演習の趣旨に反し取締規則にも抵觸する行爲だから嚴に戒めよと市當局では九日市内各區に通牒を發した右について當局では

防空演習は實戰的訓練であり前線將兵と辛酸を共にして銃後防空の完璧を期するのでありその費用も最少限度に止め各自持辨當によつて苟もお祭り騷ぎに陷るやうなことがあつてはならない、この時に當つてかかる行爲は斷じて戒めねばならないことだ

餞別詐欺に執行猶豫

昨報、僞電報で餞別を詐取した磐崎村小野田土工管野忠信（三七）の公判は八日淺野裁判長で開廷、富澤檢事の求刑六ケ月に對し『詐欺の意思はありませんでした』との申立てが認められ懲役六ケ月但し三年間執行猶豫の判決を言渡された

縣名通り福島
東北の首位を占むる 郵便貯金現在高

東北六縣を管轄區域とする仙台貯金支局に於ける去月中の事業概況が此程發表されたが之によると同月末現在の縣下貯金總人員百十二萬千百六十五人此金額八千三百三十三萬六千二百七十七圓で前年同期に比し十九萬六千七百二十一人千二百四萬二千五百三十四圓の激增を示し、人員では左程でないが現在及び增加金額とも他の二、三倍に當つて居る、尚は一人當り預金額次の如く、福島縣の名詮自稱國民貯金熱の旺盛振りを示して居る

縣別	一人當り
宮城	四六、四八錢
福島	七四、三三
岩手	四八、五八
青森	五七、〇七
山形	二八、二八
秋田	三三、七七
平均	五〇、〇三

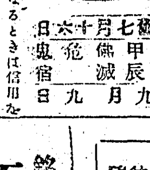
田中所長昇格

平土木監督所長田中幸吉氏は六日付本縣道路、土木技師に任ぜられた

氏は大正十四年仙臺高工卒業と共に神奈川縣技手に任ぜられ翌十五年本縣に來任、今日に至つた新進技術家である

（小名濱測候所發表）九日　滿潮 前三、四五 後四、五〇　干潮 前一〇、三五 後一〇、五五

閏七月十六日　金曜　甲辰　佛滅　危　鬼宿　新九月九日



▲一白 ころうなるときは信用を損して禁に離るべし▲二黑 内にありて平和を主とするが尤も安全なり▲三碧 人の言を説り聞きて意外失敗することあり▲四綠 我が力を頼みとし人の助けを待つべからず▲五黄 身の程を守り大なる事に手出しすべからず▲六白 内はともあれ意心外に向つて活動すべき日▲七赤 平押しに押し通むべし氣鬱みは第一の禁物▲八白 内治らされば外に向つてのえいほうもにぶるべし▲九紫 運氣一轉し此までの苦痛は一切免れ得べし

眼科一般　眼鏡檢定
重田眼科
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

故障の起らぬ
原口のラヂオ
ラジオで聽こう。時局ニース
ラヂオは是非——
專門店……へ
原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目（警察署通り）
電話（呼出）166

病室增築、手術室完備
産科 婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
往診 臨時
平市新川町「電話三六九番」

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板 買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
一變せる勉强振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ
織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
營業種目 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田杉四分板 建具材・便利丸
◎小店員募集 年齢十五歳ヨリ廿歳迄

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
内務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
電話九二・五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎